

島根大学 生物資源 科学部

生命科学科

農林生産学科

環境共生科学科

“いのち”あふれる地球を育む





豊かな自然に接し、
生き物の素晴らしさを
共に学ぼう

島根大学生物資源科学部は、理学と農学を融合した学部として1995年に設置され、30年を超える歴史を重ねてきました。本学部は松江市の中心に位置し、宍道湖・中海、三瓶山、日本海などといった豊かな自然に囲まれており、フィールドを活かした教育や未利用資源を利活用した研究を行える環境が整っております。生物資源科学部では、「生命科学」、「農林生産」、「食料」、「農業経営・経済」、「生態環境」、「生物資源の利活用」、「環境保全・管理」をキーワードとして、人間・社会・自然に関する幅広い教養や理学や農学に関わる基礎的な知識を身に付け、地域や国際社会で活躍できる人材の育成を目指して、研究・教育を行ってきました。

現在、本学部は「生命科学科」、「農林生産学科」、「環境共生科学科」の3学科と附属生物資源教育研究センター（演習林、農場、臨海実験所）で構成されており、専門知識と技能を講義だけでなく、室内実験、フィールド実習、グループ学習などで幅広く身に付けることができます。また、クロス教育により、専門分野を越えて他分野の科目を学び、新たな分野と出会う機会を得ることができ、より高度な研究・教育を希望する学生には大学院進学の手も用意されています。

生物資源科学部では、島根の豊かな自然とフィールドを活かした研究・教育を通じて、地域や世界の発展と持続可能な社会構築を目指す、みなさまをお待ちしております。

島根大学 生物資源科学部長 **上野 誠**
UENO Makoto

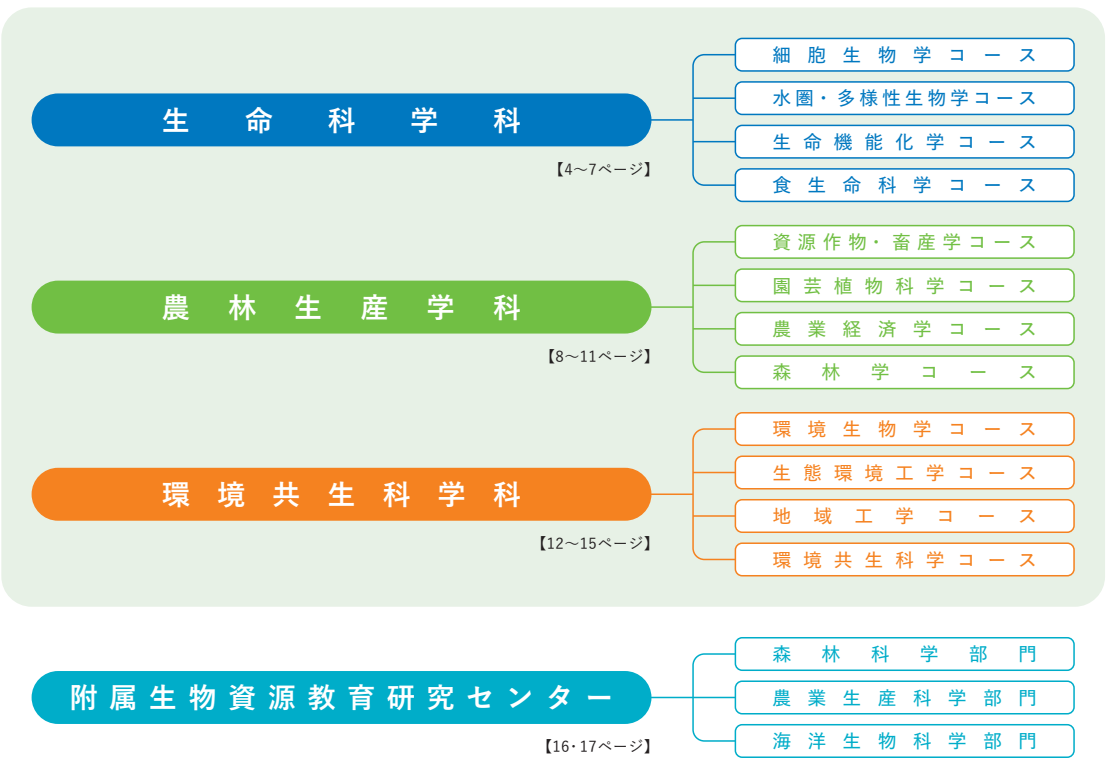
沿革

- 1947年 ● 島根県立農林専門学校設置
- 1949年 ● 新制島根大学設置
- 1965年 ● 島根県立島根農科大学を国立移管し、農学部を設置
- 1971年 ● 大学院農学研究科を設置
- 1995年 ● 農学部と理学部を改組し、生物資源科学部を設置
- 2000年 ● 大学院生物資源科学研究科を設置
- 2004年 ● 国立大学法人島根大学となる
- 2008年 ● 生物資源科学研究科5専攻体制から3専攻体制に改組
- 2012年 ● 生物資源科学部を5学科体制から4学科体制に改組
- 2018年 ● 生物資源科学部を4学科体制から3学科体制に改組
- 2020年 ● 自然科学研究科（博士後期課程）を設置



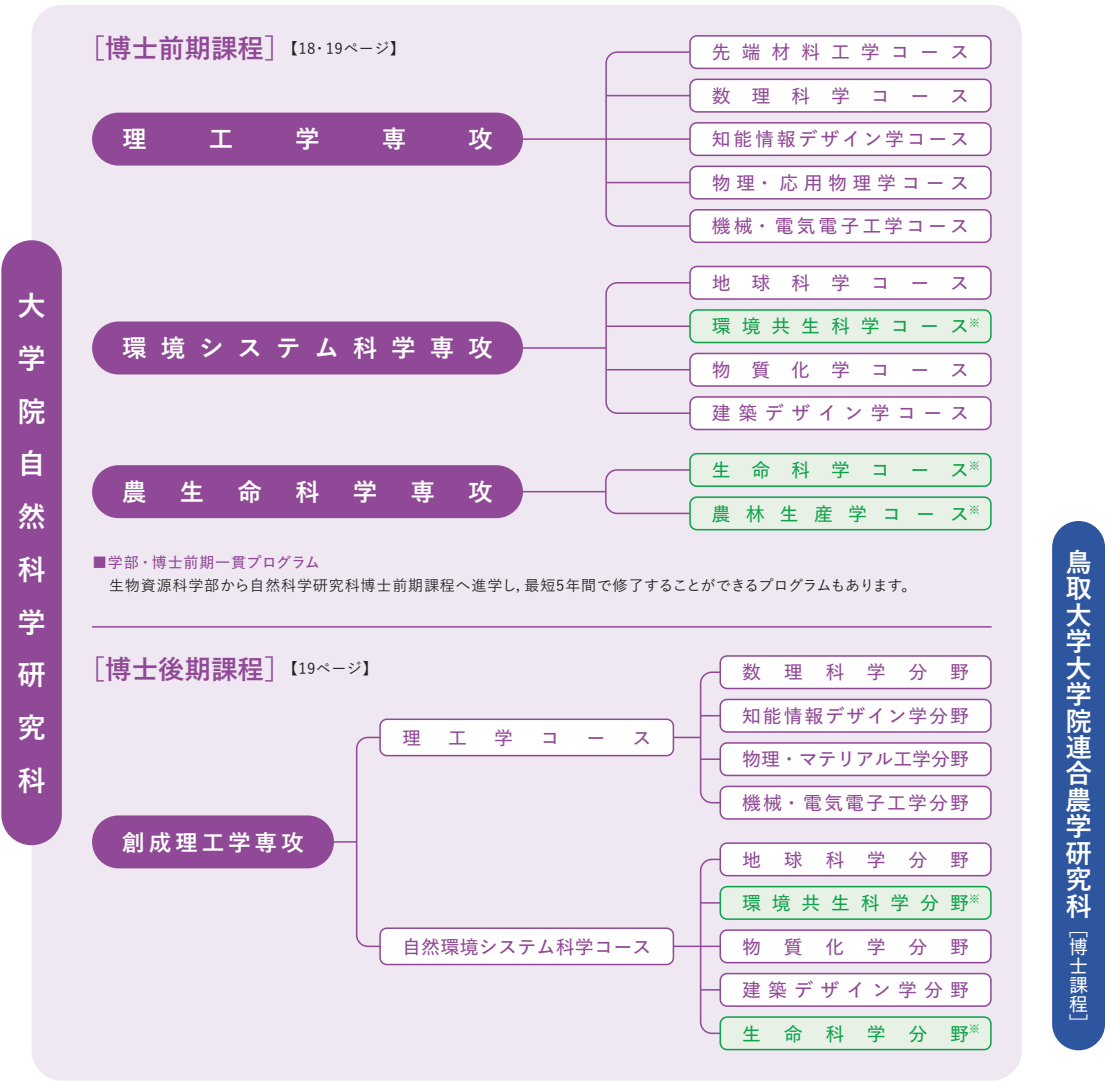
生物資源科学部の構成

3つの学科と附属センターで
構成されています



大学院の構成

専門性を磨くために
大学院への進学も可能です



※生物資源科学部の各学科からは、博士前期課程のうち主に環境共生科学コース、生命科学コース、農林生産学コースへの進学となります。続けて博士後期課程へ進学した場合は主に環境共生科学分野と生命科学分野への進学となります。

生命科学科



生命科学の探求

生命科学科では、微生物から動物・植物に至る多様な生物が示す様々な生命現象についての基本的な理解と根本原理の解明をめざすとともに、これら生物が有する様々な有用機能を食品・化学工業、医薬・農薬製造業などの生物・化学産業に役立てるための教育と研究を行います。生命現象の不思議さを追求し応用する過程を通し、論理的思考力、問題解決能力を身に付け、社会で活躍するための資質能力を向上させることができます。

卒業後の進路

- 大学院進学
- 中学・高校教員 ■国家・地方公務員
- 教育・研究機関職員
- 製薬・食品会社
- 環境関連産業
- 動物及び植物などを扱う関連施設（水族館・動物病院・多機能型牧場など）
- 食品、医薬、化学工業、農林水産業などの技術者、研究者

活躍する卒業生



広島県公立高校 理科教諭 **天坂 真衣**さん
2024年(令和6年)3月
生命科学科卒業

私は、広島県の公立高校で理科教諭として勤務し、理科の面白さを伝えられるよう試行錯誤の毎日を送っています。大学時代は、遺伝子改変技術を用いた植物の研究をしていました。研究室での経験は、専門知識に加え社会で役立つ力も養ってくれます。皆さんも島根大学で多くの経験を積み、実りある学生生活を送ってください。



堺化学工業株式会社 大阪営業課 **森田 光**さん
2022年(令和4年)3月 生命科学科卒業
2024年(令和6年)3月 自然科学研究科修了

現在は堺化学工業で営業職として働いています。大学ではミドリゾウムシの研究をしていましたが、今は無機化学品の販売に携わっています。分野は大きく異なっても、研究で培った考える力や伝える力は確実に今の仕事に生きています。経験は思わぬ形で未来につながりますので、まずは学生生活を全力で駆け抜けてください。

教育の特色

生命科学科では、生命科学の基礎から応用まで幅広くしっかり学べるように、授業の種類を豊富に用意しています。1年次には基盤科目や生命科学基礎セミナーで基礎学力を



涵養し、さらに2年次からは特色のある4つの教育コース「細胞生物学」、「水圏・多様性生物学」、「生命機能化学」、「食生命科学」のうちのいずれかの教育コースを選択することで、より専門的な知識を身に付けることができます。「細胞生物学」と「水圏・多様性生物学」の2コースは連携しており、生物学を基礎とした理学的教育に重点を置いた生物系カリキュラムを提供します。生物系2コースは、附属生物資源教育研究センター海洋生物科学部門(隠岐臨海実験所)と連携しており、実験所の教員の指導のもとで卒業研究を行うこともできます。一方、「生命機能化学」と「食生命科学」の2コースも連携して、生物学と化学を基礎とし、生命の仕組みを食品・化学工業、医薬・農薬製造業などの生物・化学産業へと応用可能な農芸化学的教育に重点を置いた生命工学系カリキュラムを提供します。また、生命工学系2コースは、総合科学研究支援センター遺伝子機能解析部門と教育・研究で連携しており、センター教員の指導が受けられる学際的卒業研究も行っています。

カリキュラム

生命科学科では、1年次に基盤科目を履修した後、2年次からは、生物学を主体とする2コース(細胞生物学コース、水圏・多様性生物学コース)及び生物学と化学を主体とする2コース(生命機能化学コース、食生命科学コース)のいずれかのコースに所属して専門教育を学びます。3年次後期からは各研究室に配属され、卒業研究の実施に向けた活動が始まります。



[履修モデル]

	1年次	2年次	3年次	4年次
	全学共通教育科目			
細胞生物学	基盤科目 (生物学、微生物学他)	専門科目 (発生生物学、植物生理学、動物生理学、免疫学、植物分子生物学、形態形成学他)		卒業研究
	基礎セミナー	実験／セミナー	実験／セミナー	
	全学共通教育科目			
水圏・多様性生物学	基盤科目 (生物学、化学、動物学他)	専門科目 (水圏・多様性生物学特論、生態学通論、水圏生態学、進化遺伝学、海洋生物学、多様性植物学他)		卒業研究
	基礎セミナー	実験／セミナー	実験／セミナー	
	全学共通教育科目			
生命機能化学	基盤科目 (化学、基礎有機化学、物理化学他)	専門科目 (生命機能化学特論、化学生物学、植物光生理生化学、生物有機化学、生命分子分光学、分子認識工学、農薬生物制御化学、バイオシグナル工学他)		卒業演習 卒業研究
	基礎セミナー	実験／セミナー	実験／セミナー	
	全学共通教育科目			
食生命科学	基盤科目 (生物学、植物学、微生物学他)	専門科目 (分子生物学、食生命科学特論、食品微生物学、食品衛生学、食品機能学、食品バイオテクノロジー、細胞工学、遺伝子工学他)		卒業演習 卒業研究
	基礎セミナー	実験／セミナー	実験／セミナー	

01 細胞生物学コース ミクロな視点から生命現象を科学する

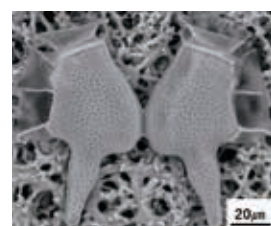
1年次には基盤科目を通して生物生命科学の幅広い知識を学びます。学年が進むと、より専門的な講義を履修するとともに、実習を通して細胞・遺伝子・タンパク質などミクロな視点から生物を理解するための実験技術を修得します。これらの学びを通して、科学的思考力と方法論を身につけます。3年次後期には研究室配属が決定し、4年次の卒業研究では、モデル植物における分子の役割、原生生物の細胞運動、細胞内共生の成立機構、無脊椎動物の神経発生機構、脊椎動物の体液調節機構などのミクロ視点の研究を通して、専門知識と実践的な研究能力を高めます。そして、4年次の冬には、その成果を卒業論文としてまとめ、口頭で発表します。このような過程を通して、論理的思考力や文章作成能力、プレゼンテーション能力を総合的に身につけます。

取得可能な資格

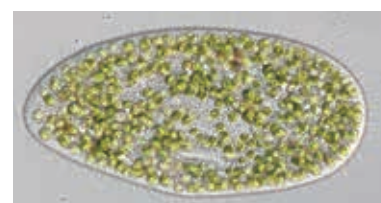
- 教育職員免許状(高等学校一種(理科), 中学校一種(理科))
- 学芸員
- 食の6次産業化プロデューサー



生物科学実験の実習風景



渦鞭毛藻類デノフィス



ミドリゾウリムシ

02 水圏・多様性生物学コース マクロな視点から生命現象を科学する

1年次には基盤科目を中心に履修し、生物生命科学の幅広い知識を学びます。2年次からより専門的な講義を履修するとともに、実習を通して行動・生態・進化などの視点から生物を理解するための実験・野外調査・理論の技術を修得します。これらの学びを通して、科学的思考力と方法論を身につけます。3年次後期から研究室に配属され、4年次には山陰地域の生態系に見られる動植物を対象に進化・生態学的研究に取り組みます。具体的には、遺伝的分化や系統進化、島嶼生物の保全遺伝、環境DNAによるモニタリング、頭足類の生殖戦略、生物多様性の進化・維持機構の理論分析など、個体から生態系レベルに至る多様な研究を行います。最終的にはその成果を卒業論文としてまとめ、口頭で発表します。この過程を通して、論理的思考力や表現力を総合的に養います。

取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科), 中学校一種(理科))
- 学芸員
- 食の6次産業化プロデューサー



基礎生物科学実験の実習風景



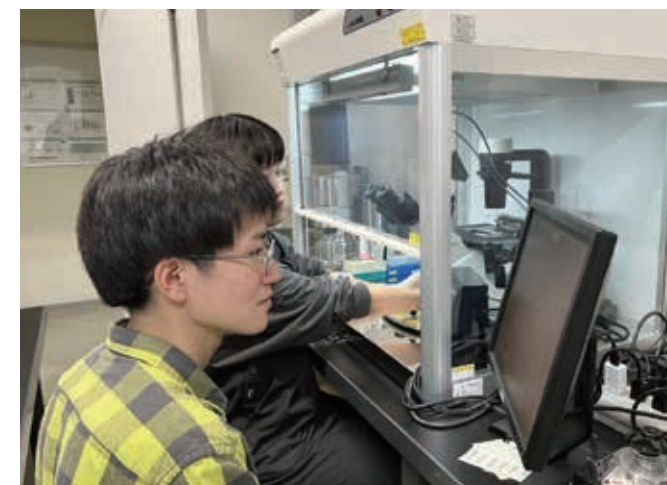
博物館実習

03 生命機能化学コース 分子レベルで生命現象を解明する

2年次から本コースに入り、3年次前期までに種々の専門科目を学びます。生物学と化学の融合領域として化学生物学、植物光生理生化学、生物有機化学、農薬生物制御化学、分子認識工学などを、また、応用領域として細胞工学、バイオシグナル工学などを履修します。一方で、この間、基礎から専門に至る12種類の実験科目を受講します。3年次後期から研究室に所属し、卒業研究に向けた活動が始まります。本コースでは、生体分子に関する分子分光学的研究、分子が互いを識別する原理の解明、脱皮・変態・休眠・相変異などの昆虫内分泌の解明、神経伝達物質受容体に作用する新規リガンドの合成、昆虫幼若ホルモンの作用機構、活性酸素種の代謝、植物におけるビタミンCなど抗酸化物質の合成や生理作用、補酵素の代謝調節機構などの研究が活発に行われています。大学院生はもとより、4年生が学会発表することも珍しくありません。

取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科), 中学校一種(理科))
- 食品衛生監視員 ■食品衛生管理者
- 食の6次産業化プロデューサー



ユーグレナ



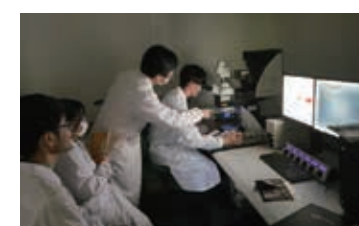
次世代シーケンサー

04 食生命科学コース 食に関わる生命現象を解明する

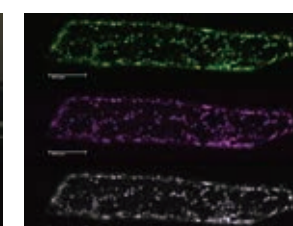
2年次から本コースに入り、3年次前期までに種々の専門科目を学びます。食の生命科学に関する基礎領域として、食生命科学特論、食品生化学、食品衛生学、食品微生物学、栄養生命科学などを、また、応用領域として食品バイオテクノロジー、食品機能学、細胞工学、栄養シグナリングなどを履修します。生命機能化学コースと共通の12種類の実験科目も受講します。3年次後期から研究室に所属し、卒業研究に向けた活動が始まります。本コースでは、動物培養細胞を用いた生理活性物質の作用機構、脂溶性機能性食品成分の生体利用性、脂肪酸由来生理活性物質の生合成機構、コエンザイムQ10の生合成機構と機能、腸内細菌・乳酸菌の生理機能、酵母のストレス応答と細胞周期、食品機能性成分を増強した植物の開発、穀物の栄養成分の蓄積機構などの研究が行われています。学生が学会で研究発表することもよくあります。

取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科), 中学校一種(理科))
- 食品衛生監視員 ■食品衛生管理者
- 食の6次産業化プロデューサー



タマネギ細胞のタンパク質の蛍光バイオイメージング実験



農 林 生 産 学 科



農林業による豊かな暮らしの実現

農林生産学科は、農林業生産による豊かな人間生活の実現を目指して、農産物及び林産物に関する持続可能な生産技術と経営・経済について教育と研究を行う学科です。資源作物・畜産学、園芸植物科学、農業経済学、森林学の4つの教育コースからなる本学科では、相互に連携したカリキュラムにより農林生産学全般を広く学びつつ、各コースの専門的な知識・技術の修得を図ることができます。自然、生物、食に関して興味がある人を求めており、将来、農林業自営、JAなどの農林業団体の職員、種苗・食品・医薬・環境・機械などの農林関連企業における技術職・営業職、国や地方の公務員、中学・高校の教員などとして活躍されることを期待しています。

卒業後の進路

- 大学院進学
- 中学・高校教員
- 国家・地方公務員
- JA、森林組合、林業公社、食品、種苗、飼料、農薬、医薬、機械、住宅設備、造園、環境コンサルタントなどの農林関連企業・団体、農林自営業

活躍する卒業生



鳥根県職員 **武田 晴香** さん
2021年(令和3年)3月 農林生産学科卒業
2023年(令和5年)3月 自然科学研究科修了

私は鳥根県職員(農学)として、白ネギの栽培に関する試験研究を行っています。大学院では、在来カブ交雑系統の形質評価とその遺伝性の解明に取り組み、特産品開発の楽しさや多角的な視点を学ぶことができました。自分で考えながら研究を進める力、人に分かりやすく伝える力は現在の仕事に活かされていると感じます。



坂元醸造株式会社 **内村 裕司** さん
2022年(令和4年)3月 農林生産学科卒業
2024年(令和6年)3月 自然科学研究科修了

私は黒酢をつくるメーカーである坂元醸造株式会社に就職し、営業部として黒酢商品とお客様のニーズを繋げる仕事をしています。私はコースでの研究を通じて、専門知識はもちろんのこと、課題発見・解決のスキルを習得することができました。大学生活での様々な経験によって、皆様の未来の可能性がさらに広がることを願っています。

教育の特色

豊かな自然環境に恵まれた山陰地域という立地条件を活かしたフィールド学習を含む幅広いカリキュラムを通して、農林業とそれを取り巻く生態系と地域社会について総合的に学びます。さらに、農林生産学を代表する4つの教育コースのうちの1つを選択する2年次からは、先端的研究を行う教員による専門的な講義、実習、卒業研究の指導を通して、深い知識と高い技術を身に付け、農林業、食品、医薬、環境、地域、学術研究などに関わる将来の進路選択に備えます。



選べる4つの教育コース

01 資源作物・畜産学コース

人の主なエネルギー供給源となるイネなどの資源作物及び家畜の肉、乳の安定的な供給と持続可能な生産を目的とした理論、技術を修得し、作物・動物の生産に特化した専門的な知識と理解を深め、それらに関する応用力を養うと共に、地域の農畜産物の生産現場に合わせた食料生産の向上を視野に入れた講義、実習、実験を行います。

02 園芸植物科学コース

果物、野菜、花などの園芸植物を材料とし、植物資源開発、植物工場、園芸植物利用における専門知識について教育すると共に、地域の自然環境を活かした園芸植物の効率的生産、品質改良、6次産業化などに関するフィールド実習及び研究を網羅した特色ある教育を行うことで園芸生産や利用分野で活躍する技能を有した人材を育成します。

03 農業経済学コース

農と食のマーケティング、6次産業化、農家経営、農業の担い手、アグリビジネス、地域活性化、地域資源管理、途上国発展など、食料、農業、農村をめぐる諸事象について総合的に理解し、社会科学の視点から独自に考察・提案できる能力を備え、国内、国外、農村、都市を問わず持続可能な地域社会の創造に貢献できる人材を育成します。

04 森林学コース

私達の暮らしに欠かせない森林・林業について教育と研究を行います。森林の育成と保全・計画、林内環境、森林利用のための林業機械、地理情報システム・GPS・ドローン・人工衛星を利用した森林の調査と管理、森林を取り巻く政策・経済、再生可能なエネルギー利用、野生動物管理など、森林を総合的に学ぶことができます。

カリキュラム

農林業に関する広い視野を育む基礎セミナー及び実習から専門的な学びがスタートします。4つの教育コースに分かれる2年次からは、選択したコースの講義や実験・実習・セミナーを主に履修することにより、専門的な知識と技術の修得を目指します。また、各人の興味に合わせて、他コースの多様な講義やフィールド系の実習・セミナーなども履修します。4年次には、修得した知識や技術を活用し、発展させる力を養成する卒業研究に取り組みます。

[履修モデル]	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
資源作物・畜産学	全 学 共 通 教 育 科 目			英 語 演 習 卒 業 研 究
	基 盤 科 目 (資源作物・畜産学概論他)	専 門 科 目 (作物学, 家畜栄養学, 植物栄養化学, 資源作物学, 耕地栽培学他)		
	基 礎 セ ミ ナ ー ・ 実 習	実 験 / 演 習	専攻演習／専攻実験／特別研究	
園 芸 植 物 科 学	全 学 共 通 教 育 科 目			英 語 演 習 卒 業 研 究
	基 盤 科 目 (園芸生産学概論他)	専 門 科 目 (果樹園芸学, 野菜園芸学, 花卉園芸学, 植物育種学, 六次産業化概論他)		
	基 礎 セ ミ ナ ー ・ 実 習	実 験 / 演 習	専 攻 実 験	
農 業 経 済 学	全 学 共 通 教 育 科 目			卒 論 演 習 卒 業 研 究
	基 盤 科 目 (農業原論, 経済原論他)	専 門 科 目 (農業経済学, 農業経営学, 農政学, 食と農の地域学, アグリバイオビジネス学他)		
	基 礎 セ ミ ナ ー ・ 実 習	セ ミ ナ ー / 演 習	卒 論 演 習	
森 林 学	全 学 共 通 教 育 科 目			卒 業 演 習 卒 業 研 究
	基 盤 科 目 (植物学, 統計学他)	専 門 科 目 (森林計画学, 森林ジオインフォマティクス, 森林利用学, 林政学他)		
	基 礎 セ ミ ナ ー ・ 実 習	実 験 / 演 習	実 験 / 演 習	

01 資源作物・畜産学コース 農畜産物の生産性向上を通して人類の食を支える

国内外の農業は、地球温暖化に伴う環境変動、生産者の高齢化、関税の引き下げ・自由化に伴う国際競争といった多様で深刻な問題を抱えています。資源作物・畜産学コースでは、人類の主たるエネルギー供給源となるイネ、ダイズ、サツマイモなどの資源作物やウシやヒツジといった家畜に焦点を当てて、こうした自然・社会環境の変化に起因する農業問題の解決に貢献できる人材を育成します。1, 2年次において講義、実験、実習を通して農畜産物の生理・生態的特性や管理技術など、生産に必要とされる専門知識、理論、技術を学んだ上で、3, 4年次からは気象、土壌などが収穫量や品質に及ぼす影響の解析、有用微生物を利用した栽培技術の開発、動物の栄養・生理的な特性の究明、家畜飼料の開発、肉・乳の効率的生産及び品質向上を目指した研究に取り組みます。



取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(農業・理科), 中学校一種(理科))
- 食の6次産業化プロデューサー

02 園芸植物科学コース 園芸植物の高付加価値化の実現

人々が豊かな生活を送る中で、園芸作物に対する色、形、香り、そして食味などの様々なニーズが増加しています。また、消費者の健康や食の安全、地域ブランドに対する関心の高まりもあります。園芸植物科学コースでは、ブドウ、カキ、ダイコン、トマト、サクラ、ツツジといった果物、野菜及び花を主な対象とし、栽培管理・作型、育種・遺伝資源、貯蔵・加工、機能性・特産品開発などについて学びます。1, 2年次において講義、実験、実習を通して園芸植物の生理学や遺伝学の基礎的知識をはじめ、育種法や栽培技術に関する専門知識を学びます。3年次からは課題研究に取り組み、栽培試験や品質調査をはじめ、機能性成分分析や遺伝子解析なども行い、園芸植物の品種開発や高付加価値化に向けた栽培・加工技術の改良を目指します。



取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(農業・理科), 中学校一種(理科))
- 食の6次産業化プロデューサー

03 農業経済学コース 食と農の現場を解明し問題解決に貢献する文理融合型の農学

学部の中で唯一、社会科学を広く学ぶことができるコースです。1, 2年次には、農業経済学の基礎知識の習得に加え、フィールドワークで農業・農村の現場を体験し、社会調査の基礎を学びます。2, 3年次には、食・農業・農村の問題解決に向けた経済学・経営学・政策学・社会学・歴史学などの応用理論を学びます。3年次からは、各自の関心や目的に適った研究室に所属し、教員の指導の下、学生自らが研究テーマを設定し、フィールド調査や文献調査を行い、科学的分析・論考を重ねて、卒業研究にまとめていきます。

基盤科目で自然科学の科目を広く選択できる他、農学に関する科目を専門科目として履修でき、農業関係の職に就きやすいように配慮されています。また、文系・理系両方の分野を学んだことを就職活動の強みにすることもできます。



取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(農業・理科), 中学校一種(理科))
- 食の6次産業化プロデューサー

04 森林学コース 森林の育成と保全、林業の発展に貢献する

1年次には大学4年間の基盤となる科目と共に、農林生産学科の入門科目を履修します。2年次になるとコースに所属し、森林学の講義に加え、大学の演習林や地域のフィールドに出て実習を行います。それは3年次になるとより専門化し、一方で、専門と専門を繋いだ応用編としての実習に引き継がれます。同時に、セミナー形式で自らの興味を掘り下げていき、卒業研究のテーマを考えていきます。本コースは、卒業研究を必修としています。3年次の前期から卒業研究の計画を始め、調査・研究を行い、4年次の秋に中間発表、冬に卒業論文を書き上げ、最後に4年間の成果として発表会を行います。森林学を総合的に学び、自ら卒業研究に取り組むことで、森林・林業関連の公務員、事業者の職員として必要な力を身に付けることができます。



取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(農業・理科), 中学校一種(理科))
- 森林情報士(森林GIS部門)
- 食の6次産業化プロデューサー

環境共生科学科



環境調和型社会の構築を目指して

環境共生科学科では、土・水・生物などの資源と環境を適切に保全・管理しつつ持続的に利用していく環境調和型社会の構築や、その実践のために必要となる専門知識や技術に関する科学と工学の両観点からの教育を重視します。学生の皆さんは、2年次から環境生物学・生態環境工学・地域工学・環境共生科学という、互いに重なり合いつつも特色ある4つの教育コースに配属され、多角的な視点から、地域の持続的な発展に貢献する様々な手法の修得を目指します。就職先には公務員、教員、機械・電機系の会社、IT関連企業、食品関連の会社、建設会社、技術コンサルタント会社、環境コンサルタント会社などがあります。

卒業後の進路

- 大学院進学
- 中学・高校教員
- 国家・地方公務員
- 環境調査、緑化、水処理、食品、機械、建設、ソフトウェア開発などの各種企業や団体

活躍する卒業生



長崎県県民振興局農林部 田中 愛梨さん
2025年(令和7年)3月
環境共生科学科卒業

私は現在、長崎県職員(農業職)として、生産者の方の経営改善や労力確保のための支援に関する業務に携わっています。
大学では海藻藻場における物質循環について研究をし、業務とは異なる分野ではありますが、培った課題発見力や分析力、生産者の方が抱える経営課題を整理し、現場に応じた改善策を検討する際に活かされています。失敗を恐れず、様々なことに挑戦してみてください。



千代田化工建設株式会社 草山 蓮さん
2022年(令和4年)3月
環境共生科学科卒業

私は事務系総合職社員として千代田化工建設株式会社に働いています。学生の頃は、環境分析化学を専攻し、環境汚染が及ぼす人の健康影響について研究していました。現在の仕事にも、プラントのメカニズムや技術情報を習得する上では、学生時代に学んだ知識と経験が大変役に立っています。大学は様々なことを探求できる貴重な時間だと思いますので、全力で大学生活を満喫ください。

教育の特色

入学後に、まず共通の基礎となる科目を学んだ後、2年次に教育コースを決定します。そして各コースの発展的な科目や応用的な科目へ進んでいき、身近な生物や環境問題を科学的に捉える方法や、実社会で使われている工学を学ぶと共に、問題解決に必要な広い視野と実践的な技術を養います。環境共生科学科の全教員が4つ全てのコースに関わるため、幅広い内容が学べます。



選べる4つの教育コース

01 環境生物学コース

中山間地域の森林・里山から農耕地を経て、河川・汽水域に至る広域な環境に生息する生物を対象とします。植物の病気発生機構、昆虫の利用や防除、自然界での微生物の働き、森林の健全な育成と保全などに注目し、その生命現象と多面的な意義について履修します。持続的な農業や生物資源の利活用を目指す、環境と生物、生物と生物の相互作用に関する知識と研究手法を修得します。

02 生態環境工学コース(令和8年度よりコース名称変更)

ヒトと自然の共存や生態系の保全を目指し、生物が生息する水・土環境で生じる多様な現象とそのメカニズムを科学の視点から理解するための知識と方法について履修します。地域資源循環型社会の構築を目指し、土、水、大気、生物及び人工物を介した物質の移動や循環をミクロ及びマクロの視点から理解・制御する方法や、生態環境を保全・修復する工学的手法も修得します。

03 地域工学コース

農村地域や中山間地域が有する地域資源を有効に活用して、地域の豊かな生産環境・生活環境・自然環境を創造・管理・保全するための専門的な基礎学力と技術を、工学的な観点から修得します。また、科学技術が公衆や環境に及ぼす影響(有用性と危険性)並びに責務といった技術者倫理や、必ずしも解が1つではない課題にアプローチするエンジニアリング・デザインについても履修します。

04 環境共生科学コース(令和8年度より新設)

生物資源を有効かつ持続的に利用し、人間活動と共存可能な生態系の保全・修復を行い、地域の生産基盤を維持・管理することで、環境調和型社会の構築を目指すために必要な知識や技術について総合的に履修します。複雑多岐に亘る環境問題や社会問題の解決に貢献できる広域専門家として必要な、環境生物学、生態環境工学、生物環境情報工学、地域環境工学分野の知識や技能を横断的に修得します。

カリキュラム

環境共生科学科では、各学生が2年次に4つの教育コースから1つを選択します。各コースの科目は互いに特色を有しつつも、密接に関わっています。



[履修モデル]	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
環 境 生 物 学	基 盤 科 目 環境共生科学基礎セミナー (野外実習を含む) 環境共生科学概論	[必修科目] 植物病理学概論・共生微生物学・環境昆虫学・天敵利用学・ 植物保護学・森林生態学・森林土壌学・送粉生態学・外書講読 など (他に選択科目あり)		卒 論 演 習 卒 業 研 究
		実 験 ・ 実 習	専 攻 実 験 ・ 専 攻 演 習	
	全 学 基 礎 教 育 科 目			
生 態 環 境 工 学	基 盤 科 目 環境共生科学基礎セミナー (野外実習を含む) 環境共生科学概論	[必修科目] 汽水域生態学・水環境保全学・植物環境工学・バイオマス利用学・ 環境情報工学・外書講読 など (他に選択科目あり)		卒 論 演 習 卒 業 研 究
		実 験 ・ 実 習	専 攻 実 験 ・ 専 攻 演 習	
	全 学 基 礎 教 育 科 目			
地 域 工 学	基 盤 科 目 環境共生科学基礎セミナー (野外実習を含む) 環境共生科学概論	[必修科目] 構造力学の基礎・測量学I・構造力学・土質工学I・土質工学II・ 水利施設工学I・建設材料工学・地域計画学・外書講読 (他に選択科目あり)		卒 論 演 習 卒 業 研 究
		実 験 ・ 実 習	専 攻 実 験 ・ 専 攻 演 習	
	全 学 基 礎 教 育 科 目			
環 境 共 生 科 学	基 盤 科 目 環境共生科学基礎セミナー (野外実習を含む) 環境共生科学概論	[選択必修科目] 上記3コースのすべての必修科目から自由に選択 (他に選択科目あり)		卒 論 演 習 卒 業 研 究
		実 験 ・ 実 習	専 攻 実 験 ・ 専 攻 演 習	
	全 学 基 礎 教 育 科 目			

豊富な専門講義で幅広く学ぶ

■水環境保全学 ■汽水域生態学 ■地域計画学 ■バイオマス利用学 ■環境昆虫学 ■構造力学の基礎 ■共生微生物学 ■水利施設工学 ■植物保護学 ■森林生態学 ■森林土壌学 ■植物病理学概論 ■天敵利用学 ■送粉生態学 ■植物環境工学 ■環境情報工学 ■測量学 ■構造力学 ■土質工学 ■建設材料工学

01 環境生物学コース 自然環境の多様な生物を科学する

環境生物学コースに分属した学生は、2年次に植物病理学、昆虫生態学、微生物生態学、森林生態環境学の専門科目と実験を履修します。3年次になると、1, 2年次に学んだ知識と技術を生かして植物病理学、昆虫生態学、微生物生態学、森林生態環境学のいずれかに関する研究課題に各個人で取り組み、4年次に卒業研究として成果を発表します。本コースでは、特に3年次以降に、他学科の専門科目を含む極めて多彩な科目の中から各自の興味、将来設計、就職希望などに適した科目を自由に選択できます。

取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補 ■学芸員 ■食の6次産業化プロデューサー



02 生態環境工学コース (令和8年度よりコース名称変更) 人と自然の共存や生態系の保全を目指す

生態環境工学コースでは、生物や生態系に関する基礎知識に加え、それらが生息する水圏や土壌圏の特徴について学びます。基礎的な科目として水環境学や基礎土壌学などを履修し、水圏生態学や汽水域生態学といった発展的な内容の科目を履修します。これらに加えて、地域資源循環型社会の構築や、豊かな自然を守っていくために必要な技術を修得するためにバイオマス利用学、水環境保全学、植物環境工学、環境分析化学実験などの科目を履修します。また、4年次に行う卒業研究の準備として、外書講読、生態環境科学実習や専攻実験といった実習や実験が用意されています。

取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補 ■学芸員 ■食の6次産業化プロデューサー



03 地域工学コース 地域資源の有効活用を目指す

土・水・社会基盤からなる地域資源を整備、維持することで、良好な地域社会を実現するための知識と技術を修得します。良質な農地を実現できる知識を学ぶために、土壌物理学、農地工学、農地保全学、測量学などを履修します。また、水理学、流域水文学、かんがい排水学などの科目を通して、農地へ水を供給するための知識を修得し、土質工学、構造力学、水利施設工学などを学ぶことで、機能的な社会基盤を実現するための知識を得ます。さらには地域計画学、様々な実験・演習の科目によって、各種の実験・実習で知識の定着と技術の修得を図ります。

取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補 ■測量士補 ■食の6次産業化プロデューサー



04 環境共生科学コース (令和8年度より新設) 環境調和型社会の構築を目指す

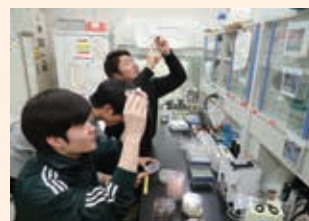
水・土・生物などの資源と環境を適切に保全・管理しつつ持続的に利用していくために必要となる、環境共生科学の幅広い知識や技術を総合的に習得します。環境共生科学コースに分属した学生は、2年次以降、環境生物学コース、生態環境工学コース、地域工学コースにて開講される科目を、自身の志向や興味に沿って自由に組み合わせて履修します。3年次になると、環境生物学、生態環境工学、生物環境情報工学、地域環境工学分野の中でいずれかの研究室に分属し、4年次にはこれまで身に着けた幅広い知識や技能を背景に卒業研究を実施します。

取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補 ■食の6次産業化プロデューサー



教育コースに関係なく進められる4つの研究分野



環境共生科学科の教員は、自然環境と人間生活をより良い形で共存させるために様々な研究を行っています。4つの分野に分かれ、それぞれが特徴的な研究を進めていますが、最終的な目標は同じです。学生は3年次に卒業研究の指導教員を決定し、その教員の指導の下で卒業研究を行い、卒業論文にまとめます。選択している教育コースに関係なく、希望する分野の教員の指導を受けることができます。

【環境生物学分野】環境生物学分野では、環境と生物、生物と生物の相互作用に注目し、生物の多様な生命現象の解明を通して、生物多様性に支えられた豊かで持続可能な農業や生物資源の利活用を目指しています。植物の病気発生機構と防除、昆虫の生態や利用と防除、自然界での微生物の働き の解明と利用、森林の健全な育成と保全などに関する基礎から応用までの幅広い研究を行っています。

【生態環境工学分野】生態環境工学分野では、良好な自然の保全や、すでに失われた自然環境を取り戻すための学問である生態工学をベースに、水環境及び土壌環境の保全修復に取り組んでいます。特に水生生物や水質の調査、微生物や吸着剤・土壌を用いた水処理、持続的生産を可能にする土壌管理、バイオマス(生物由来の資源)の循環利用などの研究を行っています。

【生物環境情報工学分野】生物環境情報工学分野では、

環境と生物の関わりを調べて活用する研究、物質の時間空間分布や偏在の情報収集・予測し環境改善する研究や、生物を構成する物質や個体群のパターンをもたらし因子を明らかにし、その情報を応用する研究を行っています。

【地域環境工学分野】地域環境工学分野では、自然環境と調和した地域の社会基盤を実現するための研究を行っています。水・土・社会基盤のそれぞれを良好に保つため

の技術や考え方、水や物質の循環を把握し改善する手法などの開発を目指しています。



附属生物資源教育研究センター



本庄総合農場のサクラ遺伝資源保存園

森林、耕地、海は私たちに不可欠な生活資材や食べ物など様々な生物資源のめぐみを与えると同時に、多様な生物環境を形成しており豊かな人間生活をもたらしています。

附属生物資源教育研究センターは、森林科学部門、農業生産科学部門、海洋生物科学部門の3部門で構成されています。それぞれの部門では、演習林、農場、臨海実験所などの地域を生かした施設を活用して特徴的なフィールド教育研究活動を行っています。さらに、水が山から里、海に流れていくように、森林、耕地、海のための有機的なつながりを意識しながら教養教育、専門教育、さらには社会教育にも積極的に取り組んでいます。

また、自然科学系のみならず人文社会系の学生も履修できる教養科目として「自然と語ろう」を開講しており、分野横断型のクロス教育としてフィールド教育プログラムを提供しています。さらに他大学生を対象とした公開実習を開講し大学間の教育・研究の連携交流を進めています。

ドローンを用いた森林上空のCO₂濃度測定

チェンソー分解組立の実習



三瓶演習林の紅葉



まるで植物のようなウミシダ



実習船アルゴによる調査航海



農業機械の運転実習

森林科学部門（三瓶演習林・匹見演習林・松江試験地）

森を訪れ、森を畏れ、森を学ぶ

島根大学には、島根県内に三瓶演習林（大田市と飯南町）、匹見演習林（益田市）、そして松江試験地（松江市）の3ヶ所の演習林があります。

3ヶ所の演習林は、ツキノワグマとブナ林のみられる落葉広葉樹林の分布する匹見演習林、常緑広葉樹林から落葉広葉樹林への移行帯にあたる三瓶演習林、常緑広葉樹林の分布する松江試験地とそれぞれ特徴のある森林帯に位置します。島根大学における森林に関する教育研究の実践の場として整備された演習林は、農林生産学科や環境共生科学科のカリキュラムの中で多くの実習教育と卒業研究に利用されています。公開森林実習では他大学の学生との交流の機会が得られます。

あなたもぜひ、島根大学演習林で新しい発見を！

《演習林の長期研究課題》

- 気象観測
- 広葉樹二次林の長期動態
- 酸性雨の影響
- 樹木の展葉落葉フェノロジー
- 小溪流の流量観測



三瓶演習林露場に日射計を設置する学生たち

農業生産科学部門（本庄総合農場・神西砂丘農場）

人と環境にやさしい農業とは

農業生産科学部門では、農業の生産性向上のための技術と人や環境との関わりを体験できる実習を行っています。本庄総合農場（15ha）にある水田、畑、ガラスハウスで様々な作物を栽培し、作物の育て方や肥料・農薬の使用量が環境に及ぼす影響を観察しながら農業と環境の関わりについて学びます。毎年約120名の学生が農場実習に参加します。

研究活動はおもに松江市の本庄総合農場と出雲市の神西砂丘農場で行われ、以下のような研究や調査を教員・技術職員・学生が協力して行っています。

- 栽培作物の生産性向上要因の解析
- 土耕・水耕栽培における生理障害の要因解明
- 新しい作型・栽培技術の開発
- 土壌中の有機・無機成分のモニタリング
- 地域資源を用いた加工品の開発



田植え実習

海洋生物科学部門（隠岐臨海実験所）

日本海のアップフロント・隠岐

海洋生物科学部門は、学外教育研究施設として隠岐の島に3隻の実習船を備えた臨海実験所が設置されています。実験所の利用は全国に開放されており、公開実習など多くの大学生・研究者が全国各地から訪れます。

実験所で行う臨海実習では、海洋生物と環境に直接触れることにより、生物多様性の意味、生物の環境への巧妙な適応戦略、生物と人間生活との関連性を学ぶことができます。海洋で採れる新鮮な実験材料を利用して、海洋の生物多様性、および海産無脊椎動物の生理・発生を体験できます。

また、隠岐の島は日本海西部の流れる対馬海流の最上流域にあたり、地球温暖化に伴う日本海の生物相の変化を観測するのに適した場所です。本来は生息していなかったヒョウモンダコやヒメカンムリヒトデなど南方系の海洋生物が定着していることが確認され、環境変動を日々感じています。また、大気・海洋を通じて流れ込む汚染物質や海洋ゴミなど、人工的な環境変動の影響が顕著に見られる場所でもあります。日本海をモデルに、環境変動を観測する研究プロジェクトについて、日本海側に面した諸大学と共に環境教育についても展開していきます。



シュノーケリング練習

大学院自然科学研究科

大学院の詳細は
こちらで
チェック！



自然を究め、持続可能な明日を創る

COURSE 博士前期課程

自然科学研究科（博士前期課程）は、総合理工学研究科と生物資源科学研究科を融合した平成30年度設置の研究科です。両研究科を統合し、3つの新しい専攻を設置しています。本研究科では確かな専門知識や技術、超スマート社会で主体的な役割を担うための情報技術力、外国語によるコミュニケーション力とグローバルな感性、そして柔軟な発想力を養います。それにより、科学・技術の発展と持続可能な社会の実現に俯瞰的・総合的視点から寄与できる創造性豊かな高度技術者・研究者及びグローバルな視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材を養成します。生物資源科学部の各学科からは、主に環境システム科学専攻（環境共生科学コース）、農生命科学専攻（生命科学コース、農林生産学コース）への進学となります。

生物資源科学部からは主に2つの専攻（環境システム科学専攻・農生命科学専攻）へ進学

環境システム科学専攻

環境と調和した社会への貢献



環境システム科学専攻には、地球科学コース、環境共生科学コース、物質化学コース、建築デザイン学コースが設置されています。本専攻では、地球科学、環境共生科学、化学、建築学の基礎知識を身に付け、その知識を基に、環境と調和したより豊かな社会の構築に貢献する、実践力と創造力を備えた国際感覚に優れた高度技術者・研究者を養成します。

農生命科学専攻

生命科学与農学の発展に貢献



農生命科学専攻には、生命科学コース、農林生産学コースが設置されています。本専攻では、生命機能を科学する能力を備え、農林生産物を利活用するための高度な専門知識・技術・課題解決能力を有し、かつ国際感覚に優れ自立的で人間性豊かな高度技術者・研究者を養成します。

理工学専攻

科学技術や社会の創造に貢献



理工学専攻には、先端材料工学コース、数理科学コース、知能情報デザイン学コース、物理・応用物理学コース、機械・電気電子工学コースが設置されています。本専攻では、数理、物理、情報の基礎知識を身に付け、その知識を基に、数理科学、物理学、情報科学、機械工学、電気電子工学、材料工学の発展に寄与し、新たな科学技術や社会の創造に貢献できる国際感覚に優れた高度技術者・研究者を養成します。

教育の特色・カリキュラム

自然科学研究科では、研究科共通科目という科目群を新たに設け、その中に、研究科内の各専攻の内容を俯瞰できる概論的科目、英語科目、数理・情報・生物学の基礎を学ぶ科目、研究者・技術者としての教養を身に付ける科目、そして実践的な課題解決能力やグローバルな視野を養成する海外インターンシップ科目などがあります。これにより、理工学、環境システム科学、農生命科学を総合的に学ぶことができ、自然科学系の幅広い教養教育が可能です。学部から大学院を含めた5年間又は6年間の一貫プログラムも設置し、優秀な学生は、5年間で学部・大学院を修了できる道も拓かれます。

大学院進学の特典

▶ 研究職・技術職への進路が広がる

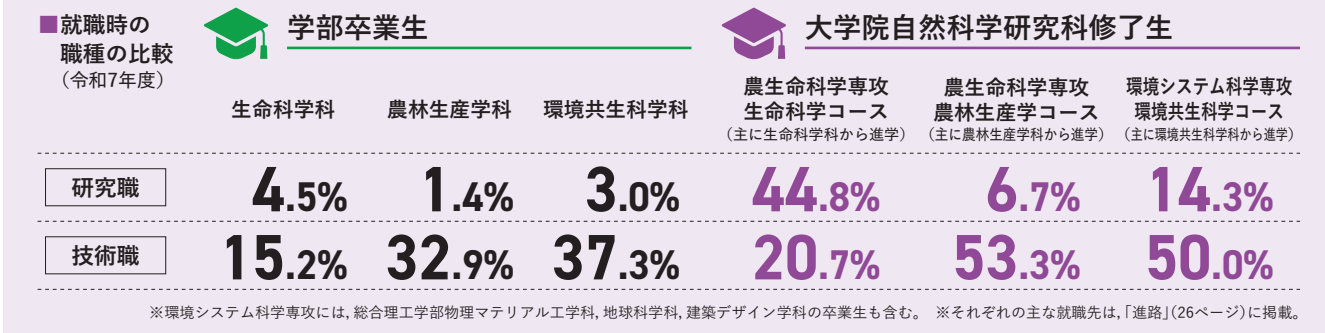
大学院進学により専門性が高まり、いずれの学科においても研究職や技術職への就職割合が高まることが示されています。

▶ 研究テーマを継続・発展できる

卒業研究で取り組んだテーマを継続・発展させ、自らの力で研究成果を創出する機会が得られます。その成果を学会などで発表することで、研究を追究する達成感や楽しさを実感することができます。

▶ 将来の進路をじっくり考える

学部生時代は単位取得やサークル活動、アルバイトなどで多忙な日々を送る中、将来、自分が本当にやりたい仕事について十分に考える時間を持てなかった場合でも、大学院では自分自身と向き合い、将来の進路についてじっくり考えることができます。



COURSE 博士後期課程

自然科学研究科（博士後期課程）は、科学技術イノベーションを担う博士人材と広範な理系分野の博士人材を養成するために令和2年度に設置されました。博士後期課程では、「生物」と「非生物」の枠にとらわれない、広い視野を持って新たな分野を切り拓いていける人材を育成するために「創成理工学専攻」の1専攻体制とし、研究科内の各研究分野間に融合教育を推進しています。また、地域社会からのニーズに応える形で整備した博士前期課程における教育研究体制との連続性をもたせるため、創成理工学専攻の教育研究の柱となる領域を「理工学」と「自然環境システム科学」の2つとし、それに対応させて、「理工学コース」と「自然環境システム科学コース」を設置しています。

研究に挑戦する在学生



自然科学研究科
博士前期課程 農生命科学専攻2年
森田 浩礼さん

私は現在、ミドリムシとして知られているユーグレナの脂質代謝について研究しています。3年次後期から研究室に配属され、現在の研究を始めましたが、研究において1年という期間は非常に短く、十分な成果を得るには至りませんでした。そこで、さらに研究を深めたいという思いに加え、将来は研究職や技術職への就職も視野に入れていたため、大学院へ進学しました。

大学院では、遺伝子解析から酵素活性評価まで、学部時代には取り組めなかった研究内容に加え、タンパク質の局在解析や輸送体探索など、より幅広い視点で研究に取り組んでいます。また、国際学会での発表を経験し、同じ分野の研究者だけでなく、異なる分野の研究者からも質問やアドバイスをいただいたことで、新たな視点や考え方に気づき、自身の研究内容への理解が深まっていることを実感しています。

研究以外では、カナダで3週間の語学留学に挑戦しました。海外での生活や新しい環境、現地で出会った友人たちとの交流は、自身の視野を広げる貴重な経験となりました。また、就職活動では多くの企業説明会に参加し、自身の将来ややりたいことについて深く考えながら準備を進め、納得のいく進路選択をすることができました。これも大学院での経験が生かされたと感じています。

大学院進学は、学部時代の研究をさらに深められるだけでなく、興味・関心を広げながら、さまざまなことに挑戦できる機会でもあります。研究をさらに深めたい方や、挑戦したいことがある方は、大学院への進学を選択肢の一つとして考えてみてはいかがでしょうか。

活躍する修了生



トキタ種苗株式会社
大根研究農場 育種開発グループ
岩上 拓己さん
2022年(令和4年)3月 修了

私は、種苗メーカーの育種開発グループに所属し、アブラナ科野菜の新品種を生み出すブリーダー（育種家）として働いています。在学中は植物のストレス耐性に関する研究を行い、学会発表などを通じて新たな発想や考え方に会えたことは、自分自身の視野を広げてくれる貴重な経験でした。

現在の仕事では、10年後の自然環境を見据えた野菜の品種改良や、世界中へ野菜種子を安定的に供給するための種子生産に携わっており、研究生活で培った探求心や忍耐力、植物の変化を見逃さない観察力に幾度も助けられています。

大学院は、専門分野の研究を深く追求できるだけでなく、「やってみたらおもしろいかも?」と思ったことに自由に挑戦できる場所です。現在はグローバルな仕事に携わっていることもあり、「大学院時代にもっとチャレンジしておけば!」と感じるほど、大学院生活は大切な時間だったと感じています。

ぜひ、挑戦することを恐れず、進学を選択肢の一つとして考えてみてください。きっと未来の自分を支える経験になるはずです。

科学する技を磨こう！



MESSAGE
01

生命科学科
食生命科学コース 3年生
曳野 汐莉さん

実践を重ねて広がる
生命科学の世界



生命科学科・生命機能化学、食生命科学コースでは、2年生前期から研究室配属までの約1年半にわたって行われる学生実験が大きな魅力です！各研究室の先生方が担当する微生物・細胞培養・植物などの実験を通して、幅広い知識や技術を身につけながら、自分の興味のある分野を見つけることができます！

実験はペアや班で協力しながら進めることが多く、和気あいあいとした雰囲気の中でも全員が真剣に取り組んでいます。先輩方が毎回そばでサポートしてくださるため、実験内容だけでなく大学生活についても気軽に相談できます。研究室ごとの雰囲気や研究内容を知ることができ、将来の研究室選びの参考にもなります。また、空き時間や授業の前後に同級生と集まって予習復習や相談をする時間も楽しいです！

さらに、研究室訪問やセミナーも充実しており、島根県の特産品や地域資源に関わる研究に触れられるところも魅力です。ぜひ生命科学科で、たくさんの人と関わりながら生命科学を楽しく学んでみませんか？

MESSAGE
02

生命科学科
水圏・多様性生物学コース 2年生
菅 道大さん

自分の「知りたい」を
追究しませんか？



生物資源科学部生命科学科は、自然環境を生かした実習と、一人ひとりの興味や意欲を大切に研究を通して、生物を深く学べる学科です。私は高校時代からメダカの生態や保全に興味を持ち、研究活動に継続して取り組んできました。その経験や成果が評価され、研究助成や研究発表を経験し、へるん入試を通じて本学に入学しました。

入学後も研究を続けたいと考え、1年次から担任教員と相談しながら研究指導を受けました。約1年間、自分のテーマに向き合いながら研究に取り組むことができました。その成果を日本生態学会の年次大会で発表し、研究を深める姿勢と実践力が身に付いたと感じています。

また、大学が管理する森林や農場、臨海実験所を活用したフィールド実習では、教室で学んだ知識を実体験として理解できます。「生物のこれが知りたい！」という気持ちを出発点に、自分の学びを形にしていきたい高校生みなさん、ぜひ挑戦してみてください！

MESSAGE
03

農林生産学科
森林学コース 3年生
森山 拓海さん

新たな視点と
興味が広がる学科



農林生産学科では、1年次に教養科目と4つのコースの基盤科目を幅広く学び、2年次から自分の興味・関心に応じたコースに所属して専門性を深めていきます。森林学コースでは、私たちの暮らしに欠かせない森林の育成や保全から、測量、ドローン、人工衛星などを活用した森林調査や管理まで、現場と最新技術を結びつけた実践的な学びを通して、多様な視点から森林について学ぶことができます。また、島根大学には演習林があり、特に2年次の実習では、三瓶演習林に宿泊し、島根の壮大な自然の中で森林管理の基本を実践的に学べる点も魅力です。

私は大学入学当初、農業分野に興味を持っていましたが、幅広い分野の講義を通して知識を得る中で、森林学に惹かれました。特に、最新技術を用いた森林管理という新たな分野に出会い、現在はドローンなどを用いた研究に取り組み、森林に関わる進路を目指すようになりました。

生物資源科学部で、私は新たな研究分野に出会い、自分の進みたい方向を見つけることができました。みなさんも、新しい出会いを探しに来ませんか。

MESSAGE
04

農林生産学科
農業経済学コース 4年生
角永 珠綺さん

「興味」は
学びの原動力



私が所属する農業経済学コースは、食料・農業・農村を主な対象として、その社会経済問題を考察し、解決策を考えることで、持続可能な地域社会の創造を目指します。フィールドワークでは、実際に農村を訪れ、農作業の体験や農家の方への聞き取り調査を行います。現地の状況を肌で感じる経験は、学びをより深めてくれます。また、他コース・他学科の授業も幅広く履修できるため、学問の枠にとらわれず、自分の興味や視野を広げることができます。

人が生きていくうえで欠かせない「食」は、歴史や文化、多くの人々と深く結びついています。そして、農業に関する社会問題は、国内外で重要な課題となっています。過去から学び、未来へつなげる。変化し続ける農業を学ぶことは、私たちの未来を守ることにつながるのではないのでしょうか。

大学では、自分が興味のあることを追求する楽しさに出会えることができました。学ぶことで世界が広がっていく感覚は、次の学びへ進む力になります。興味をもったことには、まず触れてみましょう。大切なことは、学び続けることです！

MESSAGE
05

環境共生科学科
生態環境学コース 4年生
山村 優稀さん

自然のしくみを学び、
環境を守る技術へ



私が所属している生態環境学コースでは、生物やそれらが生息する環境の特徴について幅広く学ぶとともに、生態環境を保全・修復する方法についても学びます。中でも、生態環境科学実習は本コースの大きな魅力の一つです。実際に河川や土壌を調査し、自然のしくみを自ら解き明かしていく体験型の授業です。観察・実験・分析を通して、「自然で何が起きているのか」を明らかにしていく楽しさを実感できます。

さらに、3年次には研究室配属があり、自分の関心のある分野についてより深く探究することができます。私は土壌環境や土壌の持つ機能に興味を持ち、土壌圏生態工学研究室に所属しました。現在は、土壌生態系を利用した水質浄化技術の開発や、農地・森林における土壌環境の調査・研究に取り組んでいます。水処理や農業といった実用的な課題の解決に、自身の研究がつながっていると感じ、深い充実感を得ています。

このように、基礎から応用・研究まで一貫して学べる環境が整っていることが本学科の魅力です。ぜひ私たちと一緒に、自然あふれる島根の地で学んでみませんか。皆さんの入学をお待ちしています！

MESSAGE
06

環境共生科学科
生態環境学コース 3年生
吉田 京士さん

「知の断片」を繋ぎ、
社会を動かす
「力」へと変える



島根大学生物資源科学部は、フィールドで「本物」に触れられる最高の環境です。私は1年次の乗船実習で試料を分析し、教室で学んだ知識が科学的な視点へとつながる感動を味わいました。その経験と楽しさをバネに、課題解決への参画や、他学部生との連携プログラムを通じて多様な視点に出会い、自身の可能性が大きく広がっていることを実感しています。ここは、興味を追求し、社会での実践力を養える場所です。ぜひ一歩踏み出し、面白い仲間と「本物の知」を体験してください。



個性豊かな教員が取り組む研究活動

科学の謎を追求する！

生命科学科 植物分子細胞工学

細胞を見ることで、健康機能性食材の開発や地球温暖化に強い農作物の創出を

私は細胞を蛍光顕微鏡で可視化する「蛍光バイオイメージング」という技術を活用し、学内外の先生や研究室の学生さんと一緒に幅広い研究に取り組んできました。例えば、植物の発生や成長に関わるタンパク質が効率よく再利用される仕組みを発見しました。また植物の乾燥ストレス耐性に重要な細胞内輸送体の同定にも関わりました。植物の光形態形成を担う重要な光受容体色素が作られる仕組みが従来考えられていたものとは異なることも見出しました。さらに老化物質の蛍光を捉えることに成功し老化マーカーの開発にも携わりました。現在、植物分子細胞生物学の視点から食科学への応用研究を行っています。蛍光バイオイメージングで見出した知見を活用し、機能性成分を効率よく摂取することでヒトの健康長寿の延伸に貢献できるような食材の開発や地球温暖化にも負けない頑強な農作物の開発につながる基礎研究に従事しています。このような研究を通じてSDGsに寄与し、社会に貢献したいと考えています。



生命科学科
食生命科学コース
西村 浩二 准教授

農林生産学科 作物生産学

甘くて柔らかい「さつまいも」を作るには

中国山地に位置する奥出雲町や飯南町は、冷涼な気象と「黒ボク土」と呼ばれる肥沃な土壌が特徴です。同地域で栽培された「さつまいも」は、甘くて柔らかい独特の食味と食感が評価され、高級焼き芋の原材料として都市部で高値販売されています。私は、低温環境がデンプンの糖化を促進し、加熱調理後の糖度を劇的に向上させることを解明しました。また、土壌水分量や施肥量などの栽培条件が食感に与える影響を分析し、小さなイモが柔らかい理由をデンプンの老化特性から特定するなど、美味しさの要因を科学的に解き明かしています。さらに、研究成果を社会に還元すべく、地元の生産者や企業と連携し、冬期の貯蔵性向上や高冷地での種苗生産技術の確立などの地域課題の解決にも尽力しています。美味しい作物を生産するための方法を科学的エビデンスに基づいて解明し、持続可能な地域農業の未来を切り拓いていきたいと考えています。

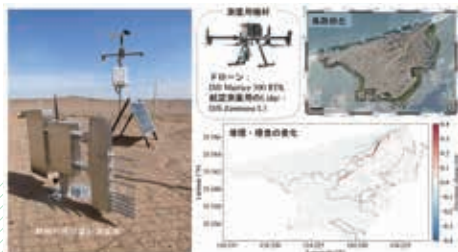


農林生産学科
資源作物・畜産学コース
足立 文彦 助教

環境共生科学科 環境物理学

空から砂丘を読み解く！飛砂と地形変化の可視化

砂丘では、強風によって大量の砂が移動し、地形が大きく変化します。私は、鳥取砂丘を対象として、「飛砂」と呼ばれる風による砂の移動を観測し、その仕組みを解明する研究を行っています。飛砂は自然現象として興味深いだけでなく、道路への砂の堆積や農地への被害など、私たちの生活にも影響を与えています。私は、特許を取得した飛砂量計測システムを用いて、風による砂移動を高時間・空間分解能で数値化し、砂丘攪乱強度を反映する指標の構築に取り組んでいます。さらに、ドローン(UAV)による空中写真・LiDAR測量を組み合わせることで、砂丘地形の変化を三次元的に可視化し、飛砂現象との関係を詳細に解析しています。特に、堆砂垣・静砂垣周辺における砂の堆積・侵食過程を解析し、防砂施設の効果を定量的に評価しています。さらに、リアルタイム飛砂監視システムの開発にも取り組み、強風時の砂移動をその場で把握できる技術を目指しています。将来的には、砂丘環境の保全や飛砂災害の予測、防災対策への応用が期待されています。



環境共生科学科
生物環境情報工学分野
劉 佳啓 准教授

教員紹介

Teachers

生命科学科

赤間 一仁 教授〈植物分子生物学〉	丸田 隆典 教授〈植物生理生化学〉	西村 浩二 准教授〈植物分子細胞工学〉
荒西 太士 教授〈遺伝生態学〉	山本 達之 教授〈生命分子分光学〉	ヌーアラパティ・ヘマンズ 准教授〈生命分子分光学・生命分析化学〉
石川 孝博 教授〈応用生物化学〉	吉清 恵介 教授〈分子認識工学〉	古水 千尋 准教授〈植物分子遺伝学〉
児玉 有紀 教授〈共生生物学〉	池田 泉 准教授〈生命有機化学〉	舞木 昭彦 准教授〈理論生態学〉
塩月 孝博 教授〈生物制御化学〉	石田 秀樹 准教授〈原生生物学〉	秋廣 高志 助教〈植物細胞生物学〉
清水 英寿 教授〈栄養・病態生理学〉	小川 貴央 准教授〈植物分子生理学〉	大沼 耕平 助教〈発生生物学〉
高原 輝彦 教授〈動物生理生態学〉	戒能 智宏 准教授〈応用微生物学〉	山口 陽子 助教〈動物生理学・比較内分泌学〉
広橋 教貴 教授〈発生生物学〉	須貝 杏子 准教授〈島嶼生物学〉	
松尾 安浩 教授〈微生物機能学〉	地阪 光生 准教授〈食品機能学〉	

農林生産学科

一戸 俊義 教授〈動物生産学〉	小林 和広 准教授〈作物生産学〉	足立 文彦 助教〈作物生産学〉
江角 智也 教授〈園芸生理機能学〉	高橋絵里奈 准教授〈森林計画学〉	加古 哲也 助教〈観賞園芸学・植物育種学〉
小林 伸雄 教授〈園芸育種学・花き園芸学〉	田中 秀幸 准教授〈施設園芸学〉	城 惣吉 助教〈土壌微生物学〉
吉村 哲彦 教授〈森林利用学・森林情報学〉	中務 明 准教授〈園芸分子育種学〉	末永 千絵 助教〈農業市場学〉
池浦 博美 准教授〈園芸植物利用学〉	中間由紀子 准教授〈農政学〉	宋 相憲 助教〈動物生理学〉
氏家 和広 准教授〈作物生理学〉	保永 展利 准教授〈地域経済学〉	ロサリア・ナタリア・セレーキ 助教〈アグリバイオビジネス学〉
門脇 正行 准教授〈作物学〉	米 康充 准教授〈森林リモートセンシング学〉	

環境共生科学科

石井 将幸 教授〈地域基盤工学〉	上野 和広 准教授〈水循環設計工学〉	木原 康孝 講師〈農地環境工学〉
上野 誠 教授〈植物病理学〉	久保満佐子 准教授〈森林生態学〉	佐藤 真理 助教〈地盤材料工学〉
木原 淳一 教授〈植物病理学〉	倉田 健悟 准教授〈汽水域生態学〉	清水 加耶 助教〈昆虫生態学〉
桑原 智之 教授〈水圏生態工学〉	佐藤 邦明 准教授〈土壌圏生態工学〉	林 昌平 助教〈微生物生態学〉
武田 育郎 教授〈水利環境工学〉	佐藤 裕和 准教授〈河川工学〉	深田耕太郎 助教〈土壌環境工学〉
宮永 龍一 教授〈昆虫生態学〉	巢山 弘介 准教授〈土壌微生物学・農業環境科学〉	藤巻 玲路 助教〈森林生態学〉
谷野 章 教授〈生物環境工学〉	長門 豪 准教授〈環境動態学〉	李 治 助教〈生物環境情報工学〉
山口 啓子 教授〈水圏生態学〉	橋本 哲 准教授〈森林水文学〉	渡邊 伸一 助教〈環境土壌学〉
泉 洋平 准教授〈害虫管理学〉	劉 佳啓 准教授〈環境物理学〉	

附属生物資源教育研究センター

〔森林科学部門〕	〔海洋生物科学部門〕	先鋭研究部門
山下 多聞 准教授〈森林環境学〉	吉田 真明 教授〈進化ゲノム生物学〉	児玉基一郎 特任教授〈発酵微生物学・植物病理学〉
〔農業生産科学部門〕	小野 廣記 助教〈進化発生学〉	
松本 真悟 教授〈土壌学・作物栄養学〉		

■ 学科別・日程別募集人員

学 科 名	募 集 人 員								合 計	帰 国 生 抜 選	私費外国人 留学生選抜
	一 般 選 抜		総 合 型 選 抜 I 「へるん入試」								
	前期日程	後期日程	一 般 型	特 定 型							
				地域志向 (島根県・鳥取県枠)	地域志向 (全国枠)	専門高校	グローバル英語				
生 命 科 学 科	37	5	22	9	3		3	70	若 干 名	若 干 名	
農 林 生 産 学 科	31	5	15			5		60	若 干 名	若 干 名	
環 境 共 生 科 学 科	33	9	16			7		70	若 干 名	若 干 名	
計	101	19	53	9	3	12	3	200	若 干 名	若 干 名	

※1. いずれも、詳細は入学者選抜要項、学生募集要項等をご参照ください。
※2. へるん入試特定型の地域志向(島根県・鳥取県枠)、地域志向(全国枠)及びグローバル英語は、学部全体での募集人員です。

■ 入試方法

区 分	一 般 選 抜		総 合 型 選 抜 I 「へるん入試」					帰 国 生 抜 選	私費外国人 留学生選抜
	前期日程	後期日程	一 般 型	特 定 型					
				地域志向 (島根県・鳥取県枠)	地域志向 (全国枠)	専門高校	グローバル英語		
試 験 内 容	大学入学 共通テスト ＋ 個別テスト	大学入学 共通テスト ＋ 面 接	【第1次選考】 出願書類 による選考 【第2次選考】 読解・表現力 試 験 ＋ 志望理由書を 用いた「面接」 ＋ 出願書類	読解・表現力 試 験 ＋ 志望理由書を 用いた「面接」 ＋ 地 域 志 向 レポートに基づく 「地域志向面接」 ＋ 出願書類	読解・表現力 試 験 ＋ 志望理由書を 用いた「面接」 ＋ 地 域 志 向 レポートに基づく 「地域志向面接」 ＋ 出願書類	読解・表現力 試 験 ＋ 志望理由書を 用いた「面接」 ＋ 専門教科の評定及び 専門教科に関連する 資 格 ・ 検 定 ＋ 出願書類	読解・表現力 試 験 ＋ 志望理由書を 用いた「面接」 ＋ 英語資格・検定試験 ＋ グローバル英語入試 志望理由書に基づく 「英語面接」 ＋ 出願書類	読解・表現力 試 験 ＋ 面 接	出 願 書 類 ＋ 日 本 留 学 試 験

※1. 各学科が大学入学共通テストにおいて課す教科・科目、個別学力試験の科目、配点等については、入学者選抜要項、学生募集要項等をご参照ください。
※2. へるん入試、一般型の第1次選考は、志願者数が募集人員の概ね3倍を超えた場合に実施することがあります。

■ 3年次編入学

学 科 名	募 集 人 員	入 試 方 法
生 命 科 学 科	合 計 15名	面 接 及 び 口 頭 試 問 ＋ 出 願 書 類
農 林 生 産 学 科		
環境共生科学科		

※2026年6月13日(出)に実施しました。

入試情報に関する問い合わせ先

●入学者選抜要項等の請求先

島根大学入試課
TEL0852-32-6073
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 FAX0852-32-9726
[E-mail] epd-nnyushi@office.shimane-u.ac.jp

●入試情報の提供

<https://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/>

島大 入試

学部・学科の
案内動画を
掲載しています！



[学部HP]



2026年
8月5日(水)
オープンキャンパス
実施！

詳細はホームページをご覧ください！



■ 令和8年度入試 実施状況

学 部	区分	募集 人員	志願者	受験者	合格者	追 加 合格者	入学者	入 学 者 内 訳 (％)						
								男	女	県内	県外	現役	既卒	その他
生物資源科学部	前	101	282	265	112	0	121	55.6	44.4	15.6	84.4	89.8	10.2	0.0
	後	19	229	80	24									
	総 I	80	177	150	84	0	84							
	帰国	若干名	1	0	0	0	0							
	私費	若干名	11	11	5	0	2							
	計	200	700	506	225	0	207	—	—	—	—	—	—	—

注. 「前」…前期日程, 「後」…後期日程, 「総 I」…総合型選抜 I 「へるん入試」(共通テストを課さない), 「帰国」…帰国生選抜, 「私費」…私費外国人留学生選抜

■ 一般選抜

学 部	学 科	区分	募集人員	志 願 者	受 験 者	合 格 者	追加合格者	入 学 者
生物資源科学部	生 命 科 学 科	前	37	56 (26)	55 (25)	43 (21)	0 (0)	42 (21)
		後	5	73 (45)	23 (11)	6 (3)		
	農 林 生 産 学 科	前	31	69 (34)	61 (28)	33 (13)	0 (0)	36 (15)
		後	5	38 (23)	7 (4)	7 (4)		
	環境共生科学科	前	33	157 (65)	149 (61)	36 (14)	0 (0)	43 (15)
		後	9	118 (49)	50 (21)	11 (4)		
	計		120	511 (242)	345 (150)	136 (59)	0 (0)	121 (51)

注. () 内は女子の数を示し、それぞれ内数である。

■ 総合型選抜 I 「へるん入試」

学 部	学 科	区分	募集人員	志 願 者	受 験 者	合 格 者	入 学 者
生物資源科学部	生 命 科 学 科	一般	22	37【16】(18【10】)	36【 7】(17【 4】)	22【 0】(12【 0】)	22【 0】(12【 0】)
	農 林 生 産 学 科	一般	15	14【16】(7【 8】)	14【 8】(7【 3】)	10【 6】(5【 2】)	10【 6】(5【 2】)
		専門	5	12 (7)	12 (6)	5 (3)	5 (3)
	環境共生科学科	一般	16	26【17】(9【 5】)	26【 8】(9【 1】)	14【 4】(7【 0】)	14【 4】(7【 0】)
		専門	7	11 (4)	11 (4)	8 (4)	8 (4)
	全 学 科	山陰	9	18 (7)	18 (7)	9 (4)	9 (4)
	全 学 科	全国	3	7 (3)	7 (3)	3 (1)	3 (1)
	全 学 科	英語	3	3 (2)	3 (2)	3 (2)	3 (2)
	計		80	128【49】(57【23】)	127【23】(55【 8】)	74【10】(38【 2】)	74【10】(38【 2】)

注1. () 内は女子の数を示し、それぞれ内数である。

注2. 【 】内はへるん入試特定型出願者のうち一般型併願者の数を示し、それぞれ外数である。

注3. 「一般」…一般型, 「専門」…特定型 専門高校入試, 「山陰」…特定型 地域志向入試(島根県・鳥取県枠), 「全国」…特定型 地域志向入試(全国枠), 「英語」…特定型 グローバル英語入試

■ 帰国生選抜

学 部	学 科	区分	募集人員	志 願 者	受 験 者	合 格 者	入 学 者
生物資源科学部	生 命 科 学 科	—	若干名	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	農 林 生 産 学 科	—	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	環境共生科学科	—	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	計		—	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

注. () 内は女子の数を示し、それぞれ内数である。

就職への強力な支援体制

職種に応じた就職セミナーや面接指導、
資格取得プログラムの実施

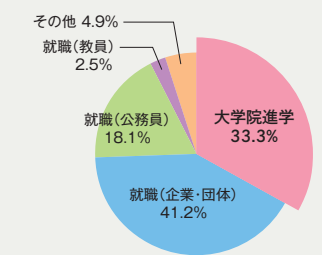
大学教育センター（キャリア担当）が企画するキャリア・就職ガイダンスや面接練習などの実践指導に加え、在学生の保護者で組織される後援会の支援を受けて、環境省や企業、就職コンサルタントから講師を招いた学部、学科独自の就職セミナーを実施しています。このセミナーの講師には本学部の卒業生も多く、個々の学生の希望や適性に応じた親身な指導を行っています。また、教員免許や学芸員など、各種の資格を得るための教育プログラムも充実しています。また、各学科に就職担当の教員を配置し、求人情報の提供や就職活動に対するアドバイスなどをいつでも受けられるようきめ細やかな指導を行っています。

【学部卒業後の主な就職先・進学先】 (令和7年度)	■生命科学科
	【企業】アース製薬、エスビー食品、ユーハイム、TOA(旧 日本コルマー)、エスアールディ(SRD)、ナリコマフード、神戸天然物化学、コスモエコパワー、海の中道海洋生態科学館、おかやまの森整備公社、福岡銀行、沖縄銀行、鳥取銀行、島根トヨタグループ、山陰酸素工業、など
	【公務員】島根労働局、和歌山県職員、岡山県警察、松江市職員
	【進学先】島根大学大学院、京都大学大学院、筑波大学大学院、広島大学大学院、千葉大学大学院など
	■農林生産学科
	【企業】日清食品ホールディングス、山崎製パン、東日本電信電話(NTT東日本)、中国電力ネットワーク、アヲハタ、デリカフーズ、イオンアグリ創造、小林種苗、千茶荘、中国木材、院庄林業、JA松山、JAおおいがわ、静岡銀行、阿波銀行、など
	【公務員】国家公務員(一般職)、島根県職員、大阪府職員、兵庫県職員、岡山県職員、長崎県職員、大分県職員、鹿児島県職員、松江市職員、出雲市職員、明石市職員
	【教員】島根県立学校、広島市立学校、愛知県立学校、北海道立学校
	【進学先】島根大学大学院、愛媛大学大学院
	■環境共生科学科
	【企業】国際協力機構(JICA)、全国農業協同組合連合会(JA全農)、日本海環境サービス、中国水工、西日本高速道路エンジニアリング中国、大隆設計、キグチテクニクス、片山化学工業研究所、東洋銅板、島根電工、阪南コーポレーション、ウェルファムフーズ、山陰合同銀行、トマト銀行、大分銀行、など
	【公務員】国土交通省気象庁、国土交通省中国地方整備局、島根県職員、岡山県職員、広島県職員、山口県職員、愛知県職員、兵庫県職員、香川県職員、福岡県職員、愛知県警察、福山市職員、姫路市職員
	【教員】島根県立学校、鳥取県立学校
	【進学先】島根大学大学院、北海道大学大学院、岡山大学大学院、愛媛大学大学院

大学院進学で広がる専門的キャリア

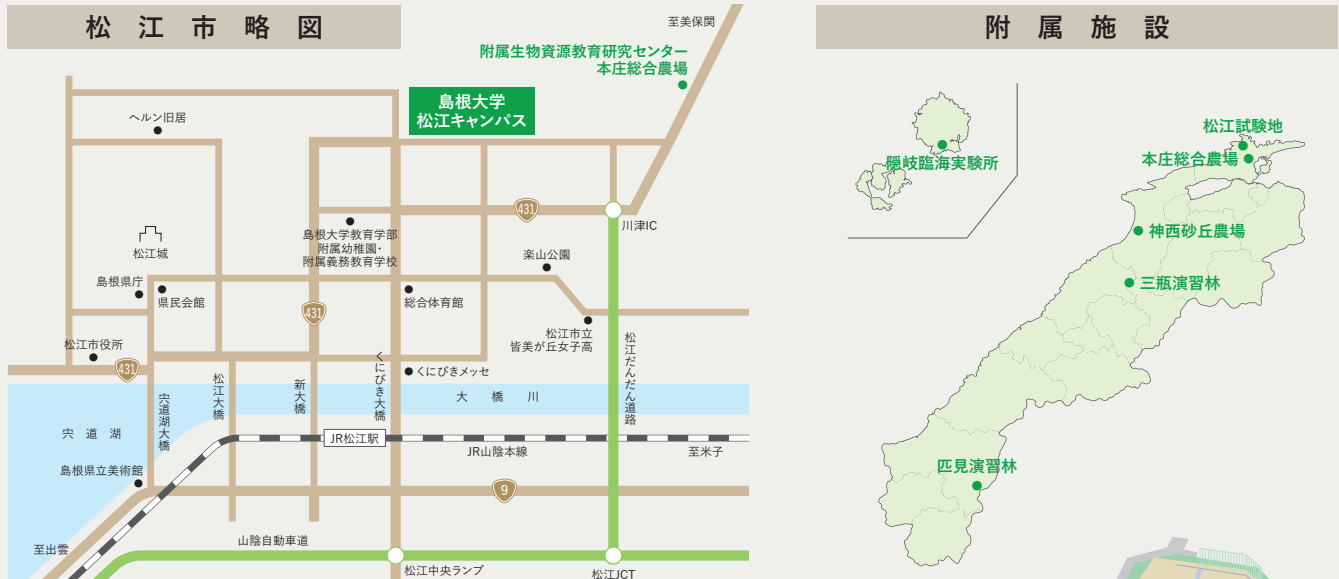
生物資源科学部で学んだ後は、より高度な研究に取り組み、高い技術と専門的な知識を深めることができる自然科学研究科への進学を推奨しています。大学院で学ぶことにより、学問の深化と専門性の向上が図られ、学会発表や論文作成を通して自身の研究成果を発信する機会が得られ、自分の能力を大きく磨くことができます。こうした経験は、食品・医薬・環境分野を中心とした研究職や技術職など、より専門性の高い職種への進路の幅を広げることにつながります。希望者は大学院の授業を学部生の時に聴講することができ、大学院で研究に集中できる時間を確保しつつ、早めの就職活動にも対応することが可能です。また、大学院生はティーチングアシスタントやリサーチアシスタントとして教育・研究に携わりながら収入を得ることができます。大学院修了後には、教育分野も含め、より専門性を活かした進路が期待されます。

■島根大学生物資源科学部卒業者の進路
(令和7年度)



■生資関連コース(生命科学コース、農林生産学コース、環境共生科学コース)

【企業】	▶研究職／エスビー食品、タイガー魔法瓶、六甲バター、いなば食品、山田養蜂場、アヲハタ、タマノイ酢、名古屋製酪(スジャータ)、ビックルスコーポレーション、薩摩酒造、ふくれん、キッセイ薬品工業、エア・ウォーター、クラレ、キヤノンメディカルダイアグノスティクス、富士フィルム和光純薬、富士フィルムワコーケミカル、日本機器製薬、オルガノ、wking、月島JFEアクアソリューション、大日本塗料、ナトコ、ナガセヴィータ(旧林原)、フジクリーン工業、リファインホールディングス、備前化成、守谷刃物研究所、残留農薬研究所、阪大微生物病研究会、サンブラネット、など ▶技術職／武田薬品工業、西日本旅客鉄道(JR西日本)、ヤクルト本社、味の素AGF、大成建設、エア・ウォーター、マイクロンメモリジャパン、日本アイ・ビー・エムデジタルサービス、日立ソリューションズ西日本、創味食品、タカラベルモント、JCRファーマ、三洋化学研究所、wking、ヴェオリア・ジャパン、日本コムシス、フソウ、ガイアート、日建工学、三祐コンサルタンツ、アサヒコンサルタント、島建コンサルタント、さんれいフーズ、ヤスハラケミカル、日研フード、など ▶営業職・その他／アジレントテクノロジー、日鉄鉱業、パースナルプロセス&テクノロジー、ハウスギャバン、ナガセヴィータ(旧林原)、堺化学工業、トヨタネ、坂元醸造、日本農業新聞、新教育総合研究会、全国農業協同組合連合会(JA全農とっとり)、など
【公務員】	▶研究職／島根県職員、ザンビア農業省(海外公務員) ▶技術職／国土交通省、国土交通省中国地方整備局、国土交通省中部地方整備局、農林水産省、島根県職員、京都府職員、岡山県職員、福岡県職員、兵庫県職員、奈良県職員、鹿児島県職員、和歌山県職員、松江市職員 ▶その他／島根県職員、兵庫県職員、沖縄県農業研究センター、和歌山県警察、松江市職員
【教員】	兵庫県立学校、三重県立学校、シェイク・ザイード大学(国立・アフガニスタン)
【進学先】	島根大学大学院(博士後期課程)、鳥取大学大学院(博士課程)、東京大学大学院(博士課程)、横浜市立大学大学院(博士後期課程)、関西医科大学大学院(博士後期課程)、ユタ大学(博士後期課程)：アメリカ

水の都・松江にある島根大学松江キャンパスは
JR松江駅からバスで約20分

大学構内図〈松江キャンパス〉

- 1 生物資源科学部1号館
- 2 生物資源科学部2号館
- 3 生物資源科学部3号館

- | | |
|--------------|---------------------|
| ④ 教養講義室棟 | ⑫ 法文学部棟 |
| ⑤ 附属図書館 | ⑬ 教育学部棟 |
| ⑥ 学生センター | ⑭ 人間科学部棟 |
| ⑦ 学生支援センター | ⑮ 総合理工学部1号館 |
| 大学教育センター | ⑯ 総合理工学部2号館 |
| ⑧ 保健管理センター | ⑰ 総合理工学部3号館 |
| ⑨ 学生食堂 | ⑱ 次世代たたら協創センター |
| ⑩ 大学会館(生協) | ⑲ 本部棟 |
| ⑪ 総合情報処理センター | ⑳ 学生市民交流ハウス |
| | ㉑ 材料エネルギー学部棟 |
| | ㉒ 産学協創インキュベーションセンター |

周辺おすすめスポット



松江城

松江のシンボルで、屋根が千鳥が羽根を広げたように見えることから、「千鳥城」とも呼ばれます。平成27年7月、国宝に指定されました。



八重垣神社

やまのひめこと いなだひめ
八岐大蛇を退治した素戔鳴尊と稲田姫が新居を構えた場所であることから、「縁結び」の神社として知られています。「鏡の池」では縁の遅速を占うコイン占いができます。



島根県立美術館

宍道湖畔に建つ“水との調和”をテーマにした美術館です。水をテーマにした国内外の絵画を収集展示しているほか、島根ゆかりの作家の作品などを展示しています。



島根大学生物資源科学部

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

TEL 0852-32-6493 FAX 0852-32-6125

<https://www.life.shimane-u.ac.jp/>

